



平成23年2月 マンスリー レポート

集計企業数 60 社

売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	43,425,252 万円	100.0%	103.6%(102.6%)	41,408,081 万円	100.3%(99.3%)
食 料 品	36,492,083 万円	84.0%(81.1%)	104.0%(103.1%)	34,707,302 万円	100.3%(99.4%)
農 産	5,238,368 万円	12.1%(11.8%)	106.2%(104.6%)	4,994,439 万円	102.6%(101.0%)
水 産	3,617,420 万円	8.3%(8.8%)	101.4%(100.7%)	3,419,244 万円	97.6%(96.9%)
畜 産	4,107,341 万円	9.5%(9.9%)	102.9%(103.6%)	3,898,090 万円	99.2%(99.8%)
惣 菜	3,617,598 万円	8.3%(8.4%)	105.4%(103.4%)	3,433,074 万円	101.3%(99.5%)
日配食品	8,397,753 万円	19.3%(17.7%)	103.4%(103.2%)	7,986,590 万円	99.7%(99.5%)
加工食品	11,513,603 万円	26.5%(24.5%)	104.2%(103.0%)	10,975,865 万円	100.6%(99.4%)
生活関連	3,032,371 万円	7.0%(7.7%)	102.7%(101.9%)	2,898,041 万円	100.4%(99.3%)
衣 料 品	1,416,433 万円	3.3%(4.6%)	98.7%(99.0%)	1,381,642 万円	97.8%(98.2%)
そ の 他	2,484,365 万円	5.7%(6.6%)	101.3%(99.4%)	2,421,096 万円	101.2%(99.0%)

数 値

全店総売上高	43,425,252 万円	店 舗 数	4,092 店舗
総売場面積	7,774,692.0 m ²	総従業員数	221,355 人

店舗平均月商	10,612.2 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,856 円 (102.0%)
月間m ² 売上(前月)	5.6 万円 (6.0 万円)	平均店舗面積	1,900.0 m ²
月間坪売上(前月)	18.5 万円 (19.8 万円)	パート比率(前月)	76.8% (77.3%)

注) 総従業員数...パート・アルバイト数は、8時間換算しています

3月11日に発生した東日本大震災により、被災した皆様には心よりお見舞い申し上げます。地震、津波による甚大な被害とその後の福島原発事故等により、今後も予断を許さない状況でございます。地震から2週間経過し、日々の新聞・テレビ報道より被災地の被害状況が明らかになってまいりました。日本スーパーマーケット協会東北地方の会員社も甚大な被害を被りました。改めて、1日も早い復旧と被災地の復興を心よりお祈り申し上げます。

首都圏においては、ご存じのとおり商品の買い溜めにより、米、餅、カップ麺、缶詰、乾電池、ティッシュ、トイレットペーパーが店頭から消えました。被災地への優先的な商品供給とガソリン、軽油等の供給が不足したことが一因となり消費者心理からこのような状況になったと思われまます。徐々に商品も安定的な供給が見込まれますので買い溜めせず冷静な行動が必要です。2月の各部門の状況についてお知らせします。

全体概況

- ・2月は節分、バレンタインと大きなイベントと「年金支給」や「子供手当」などの消費喚起の材料もあり、その中で節分については昨年を大幅に上回る実績だった
- ・鍋物商材は、天候の変動も大きく温暖な気候の為に不振だったが、中旬から幾分冷え込んだが振るわなかった
- ・新興国の需要が大きくなったことで需要と供給のバランスからコーヒーや小麦関連の値上げ報道がされ、その影響から一部商品で需要が高まった

商品動向

農産

- ・相場高で推移したが、きゃべつ、白菜、大根、人参、ジャガイモ、玉ねぎ、もやし、カット野菜が好調だった
- ・果物では、イチゴ、リンゴは好調だったが、デコポン、伊予柑などの柑橘類は不作と相場高で不振だった
- ・新玉ねぎや山ウドなど春の先取りした季節感のあるものが好調だった

水産

- ・テレビ等の報道で天然ブリの豊漁が伝えられ、料理用途に合わせた加工（ブリしゃぶ、厚切り照り焼き用、あら炊き用等）や売場拡大により好調に推移した
- ・節分いわしは年々売上を確保するのが難しくなっていく傾向にある
- ・気温変化も大きく鍋物全体で不振だったが、その中でも生カキはノロウィルスの影響もあり低調だった

畜産

- ・気温の変化があり鍋物商材は不振で、牛肉すき焼き用、豚肉しゃぶ用が好調だった
- ・オーストラリア産牛肉は水害の影響により、販促・価格訴求が出来なかった
- ・鶏インフルエンザの影響で国内産から海外産にシフトせざるを得なかった

惣菜

- ・1月同様に受験生活応援商品「かつ」の展開がロングヒットとなり、ロースとんかつを中心に好調に推移した
- ・節分に合わせて関連商材として、いわしフライ、いわし天が好調だった
- ・タコ焼、焼そば、お好み焼等、スナック系のカテゴリーが受験生応援商品として好調だった

日配・加工食品

- ・食油、コーヒー、小麦関連などの値上げ報道の影響で、コーヒー・砂糖などに仮需要が起きた
- ・テレビ番組放映の影響もあり、冷凍食品が好調（特に冷凍米飯、冷凍麺）だった
- ・夜食メニューとして、ホットケーキ、お好み焼、袋めん、カップ麺、ココア、ビスケットが好調だった

節分

- ・年々恵方巻の需要は大きく、寿司関連で年末売上を上回る催事となり、昨年に引き続き好調だった。
- ・中心価格帯の380円～500円の恵方巻と高価格帯の海鮮巻、アナゴ巻、太巻きハーフ等の1,000円～1,500円も大きな伸びを示した
- ・節分いわしは年々減少傾向にあり、ほぼ恵方巻一色である。節分そば・節分しらす・いわし缶・丸かじりソーセージなども節分関連として拡販できた
- ・太巻きよりも中巻き、ハーフサイズ、セット物の巻物の動きが良かった

バレンタインデー

- ・今年の14日が月曜日で曜日回りが良かったこともあり、売上は好調だった
- ・手作りチョコや手作りケーキの需要からケーキ材料は概ね好調だった
- ・手作り需要が低年齢層まで広がったことにより、キャラクターチョコが不振だった。義理チョコから友チョコが主流になったことによると思われる

花粉症、インフルエンザ対策

- ・今年の花粉の飛散が多いとの報道から、花粉症対策としてプレーンヨーグルトや乳酸菌飲料等が好調だった
- ・バナナも花粉症対策によいとの報道もあったが、バナナダイエットのような動きはない
- ・生姜油が好調だった。テレビ報道等もあって、生姜関連商品の動きが良かった

以上